2015-2016 年度今治ロータリークラブ週報 No.34

第 ３４ 回 例 会 報 告（3月２４日）

【 出　席　報　告 】

・会員数　５３名　・出席数　３６名　・欠席数　１７名
・当日出席率　７６．０８％　・前々回修正出席率　１００％
＜欠席会員＞阿部、平田、冠、木村、吉良、河野、桑森、岡田、大河内、竹田、吉田
〔免除会員〕青野(明)、檜垣(巧)、光藤、宮本、越智、白石
<3/10 欠席補填>(3/7 今治北)原、檜垣(直)、平尾、菅、木村、河野、眞鍋、松木、森岡、西本、大澤、岡本、尾関、八木
(3/15 今治南)平田

◇幹事報告・職場訪問例会のご案内。4 月 14 日(木)12 時 30 分よりイオンモール新都市様を訪問。駐車場は敷地内にございます。
・次年度クラブ計画書名簿作成にあたり、役職名・連絡先に訂正・変更がございましたら、ご連絡をお願い致します。

◇尾関正人会員退会あいさつ:4 月 1 日付の異動が出て退会することになりました。入会して 1 年、色々な職業の方々と話ができ、寛容と奉仕の精神を勉強させていただいた。感謝します。4 月から東京のかんぽ生命に出向します。新たな役割を全うしたい。

新会員卓話

◆宮道勝敏会員『相撲について』:なぜ相撲がテーマなのか。私が中学、高校、大学、社会人と相撲部に所属してきたからだ。卓話するに当ってネットなどで調べ、相撲の魅力を再発見した。その起源は日本書紀に伝説が残る野見宿禰（のみのすくね）と当麻蹴速（とうまのけはや）の戦いにさかのぼる。宿禰は蹴速の脇骨や腰を踏みつけ絶命させたという。神事や娯楽ではなく、殺し合いの色合いが強かったのではないか。▼江戸初期に土俵の区画ができるまで、力士を囲む人垣が土俵の代わりだった。区分がないため突き押しではなく、まわしを取り合い投げを打ち合うモンゴル相撲のような感じだったと思う。享保年間（1716～1736年）に大名が力士を抱えて行う勧進相撲が江戸、大坂を中心に栄え、人気力士は錦絵に描かれた。初めて横綱免許を実現させたのも江戸相撲。それまでの最高位は大関だった。将軍家斉の時代には上覧相撲が実現、雷電爲右エ門の登場で江戸相撲は大いに盛り上がった。▼明治39（1906）年、常設国技場として両国国技館が落成したが、実は正式に定義された「国技」は日本に存在しない。この落成時にある作家が執筆した披露文に「国技」とあることをもって国技を名乗っているにすぎない。大相撲はさまざまな改定を経て昭和33（1958）年から年6場所制が定着。昭和40（1965）年から完全部屋別総当り制が実施された。▼昨年7月の時点で力士総数は659人。約6％が外国人で、モンゴルの26人を筆頭に11カ国の39人がしのぎを削る。相撲協会は平成22（2010）年、帰化者を含む「外国出身力士」を1部屋1人に規制強化した。これ以上増やせば、日本人関取がいなくなる心配や、品位の低下を招くとの危惧があると思われる。今場所も白鳳がエルボーをしたり、駄目押ししたりと散々悪さをしている。▼ここからは解説を交えてビデオです。　①アマとプロ＝大相撲には各部屋に1人くらい偏った意識を持った力士がいて、学生が出稽古に行くと滅茶苦茶する。私もやられた。映像は幕下の学生出身力士宇良に対し、明らかに顔だけ狙って張り手を繰り出している。　②世代交代＝大横綱千代の富士に挑んだ寺尾は暗黙の了解を破って張り手をし、制裁される形で吊り落とされる。貴花田は横綱千代の富士に初挑戦で勝利、千代は引退を表明した。　③面白い取り組み＝大学の先輩武双山と千代大海の壮絶な張り手合戦。武双はベンチプレスで180キロ、スクワットで230キロを上げる。ペシペシ叩いているように見えるが相当の威力　④八百長の裏側＝八百長の元締めといわれた板井がガチンコ力士大乃国の顔面に張り手する。一方千代の富士相手だと絶対顔に当てない　⑤最後は私の大学4年のインカレの映像。相手は体重200キロの日体大主将でした。

次 回 例 会（3月３１日）

【　大分類別卓話　】

＜会員誕生日祝＞　日野　満氏（4/12）　原　竜也氏（4/19）
＜配偶者誕生祝＞　河野　通則氏（4/8）　平田　勝豪氏（4/12）
＜結婚記念日祝＞　檜垣　巧氏（4/11）
＜入会記念日祝＞　日野　満氏（4/2）　光藤　廣司氏（4/3）　越智　健司氏（4/18）

〔　俥屋　〕